東北工業大学の“今”を伝える広報誌

工大広報

No.279
Autumn 2015
2015年11月27日発行
（年4回発行）

2015年11月27日発行（年4回発行）

第40回工大祭「集結」開催

第30回北海道科学大学との定期戦 開催

北海道科学大学との定期戦での弓道対決

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
創造から統合へ―仙台からの発進
東北工業大学

第40回 工大祭 集結

平成27年の工大祭のテーマは「集結」。第40回の節目となる今年は、「人・楽しさ・技」の3つのキーワードのもと、大学祭実行委員の学生たちが「これまでにない大学祭」を目指して多くの新企画を準備しました。当日は晴天にも恵まれ、多くの人が来場し「集結」のテーマにふさわしい笑顔溢れる大学祭となりました。

日時：平成27年10月17日（土）・18日（日）
会場：八木山キャンパス

第40回 工大祭「集結」について（報告）

森田（もりた） 健一（けんいち）
学生委員会副委員長
ウェルネスセンター カウンセラー 講師

第40回記念祭でもある本年は、天候にも恵まれ大盛況のもと実施できました。今回は新企画として、各学科の知を体験的に学べる「ふれあい博」、長町キャンパスで飼育しているヤギとのふれあいコーナー、ご当地グルメ博、そして大学祭に先立って6月に行われた運動祭など、さまざまな試みがなされました。レイアウトを工夫したことで、「集結」のエネルギー、そして和気あいあいとした雰囲気が感じられる2日間となりました。

改めまして、ご家族の皆さまをはじめ、日頃ご支援くださっている方に心より感謝申し上げます。そして実行委員学生の皆さん、本当にお疲れ様でした！

少し一息ついたら、また次への一歩を踏み出しましょう。

第40回 工大祭「集結」を振り返って

阿部（あべ） 巧（たくみ）
大学祭実行委員会委員長
経営コミュニケーション学科　3年

第40回という節目の工大祭は「集結」というテーマの下、新企画を数多く実施することで「人」、「楽しさ」、「技」の「集結」を目指しました。会場はメインステージを中心に、新企画であるご当地グルメフェスティバルや工大ふれあい博を楽しむ多くの人の笑顔で溢れていました。後夜祭も開始時間を早めたことでプログラムの最後の最後まで楽しんでいただきました。

今年は多くの良い評価をいただきました。しかし、改善点もあります。来年は今年の経験、反省を活かし、より良い工大祭を創り上げてくれることを期待します。最後になりますが、天候にも恵まれ、大成功で終えることができましたこと、ご協力、ご支援いただきました皆さまに実行委員会一同、心より感謝申し上げます。

コンサート企画

末永（すえなが）　翔悟（しょうご）
都市マネジメント学科　2年

第40回を迎えた工大祭「集結」は、例年以上の盛り上がりを見せました。コンサート企画では「山猿」が今年の工大祭を大いに盛り上げてくれました。工大生の集結、ふれあい博での子供たちの集結、アーティストの集結、そしてご当地グルメ（食）の集結。今年のテーマに相応しい大学祭になりました。来年は今年以上の「集結」を実現したいと考えています。

スポーツ企画

片岡（かたおか）　拓磨（たくま）
経営コミュニケーション学科　2年

今年は10月のスポーツ大会だけではなく、6月に綱引きや玉入れを行う運動祭を開催しました。運動祭は本学初の試みということで戸惑うことがたくさんありましたが、大学祭の仲間や学生会、課外連の協力を得て無事成功することができました。

また、スポーツ大会もクラブの学生や出場者の皆さんの協力のおかげで成功することができました。

一般企画

中川（なかがわ）　史也（ふみや）
環境エネルギー学科　3年

一般企画は、主に屋台出店・展示企画・学科企画などの管理を行う部署です。今年度は第40回ということで、工大ふれあい博などの新企画を取り入れ、例年以上の盛り上がりを見せることができました。大きなトラブルもなく終えることができたので、来年は今回の反省点も踏まえてより良い工大祭を作り上げて欲しいと思います。

幼稚園企画

星（ほし）　京子（きょうこ）
建築学科　3年

今年は場所が変わって不安もありましたが、お菓子が全てなくなるほど多くの子供たちが来場し、笑顔もたくさん見られたので安心しました。作品展示にご協力してくださった、ますみ幼稚園・茂庭幼稚園・ゆりかご幼稚園の方に感謝いたします。本当にありがとうございました。

怪我や事故もなく楽しんでもらえたことが何よりでした。来年もたくさんの子供たちが来てくれるよう願っています。

ステージ企画

今野（こんの）　義輝（よしき）
安全安心生活デザイン学科　3年

今年の工大祭は第40回という節目であり、ステージも例年よりグレードアップしました。また、パフォーマーとしてKERAを呼ぶことができ、大変盛り上がりました。初めは新しいことづくしで乗り切れるのかと心配でしたが、他部署や仲間の協力で最後まで乗り切ることができて良かったです。今年の経験を後輩に伝え、来年以降はさらによい企画ができるよう努力したいです。

パンフレット企画

小玉（こだま）　晴香（はるか）
建築学科　3年

企業の皆さま、学生、職員、他部署のご協力のもと、第40回工大祭のパンフレット・ポスターを無事に制作することができました。来年も、見やすく分かりやすいレイアウトを心掛けたパンフレット、ポスター作りを頑張って欲しいと思います。

祭飾企画

鈴木（すずき）　七海（ななみ）
建築学科　3年

今年度は40周年という節目の年ということもあり、例年は制作していなかった門を制作しました。その際、ペットボトルキャップをワクチンに換えられるということからキーワードを得て、さまざまな色合いのペットボトルキャップを使い文字を作りました。また、作り替える看板も多くあり、祭飾企画担当者全員で役割分担をし、たくさんの看板を制作しました。

広報企画

岡本（おかもと）　和也（かずや）
経営コミュニケーション学科　3年

広報企画は、新企画実現に向けた部署間の横串連携ならびに広報活動を目的に、今年創設されたため、全てが初の試みでした。

主にご当地グルメやゆるキャラの招致、尚絅学院大学・仙台白百合女子大学と連携し番組の企画やメディア出演を行いました。

ターゲットに応じた戦略が功を奏し、昨年比1.5倍以上の来場者数を達成できたと自負しています。

工学部 知能エレクトロニクス学科

・学科屋台　内田裕久研究室ではフランクフルト、宮下哲哉研究室と小野寺敏幸研究室では唐揚げを提供しました。どの屋台でも一所懸命に宣伝する熱心な学生の姿が印象的でした。
・学科企画　恒例となったロボットの実演、金のしおり製作、電子工作体験の他に中庭ではEVカートの試乗やシルバーカートの試用など例年よりも広い世代の方に、楽しんでもらえる企画を用意しました。また今年は、身近で最先端の技術を紹介するテクノフォーラムも同時開催されました。

工学部 情報通信工学科

情報通信工学科では、10号館ふれあい博においてインターネットラジコンの実演、5号館ITシステムラボラトリーにおいて光通信やネットワークセキュリティに関する実験設備の公開を行い、学生が自分たちの学ぶ情報通信技術の紹介を行いました。また体験企画として実施したLEDを使った電子回路やネットワークケーブルの製作コーナーも多くの来場者にご参加いただき、情報通信技術を身近に感じていただくことができました。

工学部 建築学科

「地下鉄開通を祝うパビリオンを建築家と考えよう」というテーマで、学生有志団体colorsが建築ワークショップを行いました。八木山動物公園駅のパビリオンを6組で考え、学外より岡啓輔氏・小西泰孝氏・中田千彦氏・錦織真也氏・西田司氏を迎え、建築学科・仙台市市民局他の講師から指導をいただきました。これから、東北工業大学・仙台高等専門学校・東北大学の学生が、力を結集して、12月6日（日）だけの「（仮）空飛ぶちかてつ」を八木山キャンパスで製作していきます。

工学部 都市マネジメント学科

本学科では、いよいよ12月6日（日）に開業する「仙台市地下鉄東西線」のパネル展示を行いました。明治時代から鉄道の計画・建設は、学科の学問的ベースである土木工学の仕事です。ブースの入口に展示した話題のリニア新幹線のおもちゃはちびっ子に大好評でした。他にも「防災避難すごろく」の実演や「工大ふれあい博」で橋の模型作りコーナーなどを出展しました。加えて「玉こんにゃく」や「わた菓子」を提供し、お祭り気分を盛り上げました。

工学部 環境エネルギー学科

今年度は、ふれあい博での学科紹介とワイヤレスエネルギー伝送の実演、さらに毎年恒例のセグウェイ試乗とソーラークッカー屋台で参加しました。ワイヤレスエネルギー伝送の実演に興味津々な子供たちの姿が印象的でした。セグウェイも大盛況で、400名超の方に試乗していただきました。ソーラークッカーは調理に十分な日射しが得られるか心配でしたが、両日とも天気に恵まれ、肉まんやシュウマイなどを多くの方に提供することができました。

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

すべて学生によるデザインを紹介し、来場者から完成度の高さに驚きの声が聞かれました。「遊びのデザイン2015」では、大人から子供までが二度、三度と夢中になって遊ぶ姿が見られ、2日間とも遊びに来た方もいました。「「仙台手ぬぐい物語」作品展」では、地下鉄東西線の各駅をモチーフにした型染めに、楽しく会話が弾んでいました。「オリジナルTシャツ販売」ではユニークなデザインのTシャツが、飛ぶように売れていきました。

ライフデザイン学部 安全安心生活デザイン学科

安全安心生活デザイン学科は、昨年に引き続き、「みやぎの復興支援市」を開催いたしました。近隣の方や保護者の方など多くの方に足を運んでいただきました。商品も、ドレッシングや乾物、置物や雄勝石を使った製品など幅広く取り揃え、売れ行きも上々でした。商品説明や試食会などを通して、売り手の学生たちは、来場者とコミュニケーションを楽しんだようでした。

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科

経営コミュニケーション学科では、ふれあい博で、「リアル人生ゲーム」のコーナーを設けました。このゲームは、本学科に沿った学びが体験できるように人生ゲームを改良したものです。入学から卒業、卒業後の人生の過程に本学科の学びと関連のあるイベントマスを配置しました。活動した学生は、学友会代表の和田悠佑さんと高橋知己さん他、1～3年生です。ゲームには小学生から大人の方まで幅広い年齢の方に参加していただきました。

入試広報課

第3回オープンキャンパスを開催

本学八木山キャンパスにおいて10月17日(土)、18日(日)の両日、第3回オープンキャンパスが「工大祭」と同時開催されました。

爽やかな秋晴れのもと、県内外から高校生や保護者が両日合わせて226名ご来場いただき、26年度を大幅に上回る人数となりました。

来場者は学科紹介や体験型企画、そして展示など各学科の「まなび」について触れるとともに、学生や学科が出店するフード屋台でお腹を満たしていました。

学びの面以外での生き生きとした学生の姿、そしてキャンパス内の雰囲気は来場者の目にどのように映り、どのように感じられたでしょうか。将来のキャンパスライフをイメージし、進路選択の一助になれば幸いです。

教務学生課

後援会各県支部の大学祭見学会（平成27年度）

第40回工大祭の開催に合わせ、後援会各県支部役員による大学見学会が10月17日(土)に行われ、青森、秋田、岩手、山形、福島、新潟の各県支部および宮城県内から224名のご父母や支部役員の方が本学の八木山キャンパスを訪れました。

日頃、ご子息が学生生活を送っているキャンパスを見学し、学科企画、サークル展示、屋台などの趣向を凝らした催しを通して、学生たちの活気あふれる姿を見ていただきました。

大学祭にヤギのキャラクター「もちたろう」&「あんこ」が登場

第40回を迎えた大学祭で、ヤギのゆるキャラ「もちたろう」&「あんこ」がデビューしました。

長町キャンパスで飼育しているヤギとのコラボも果たしました。

今回、ご当地ゆるキャラの出演もあり、大学祭が一層賑やかさを増しました。

多くの来場者に愛嬌を振りまき、特に子供たちには、大人気を博しました。

これからも、種々の機会に出演し、本学のPR活動に一役買う存在になるよう期待します。

第30回北海道科学大学との定期戦対戦成績報告

船木（ふなき）　尚己（なおき）
学生委員会副委員長
建築学科　准教授

北海道科学大学との総合定期戦が8月25日（火）、26日（水）の両日、本学を会場に開催されました。昭和61年に両大学間による定期戦が開催されて以来、今年で30回目を迎える記念すべき大会となりました。それを記念し、教職員と学生の合同祝賀会が行われました。本学からは、学生、教職員、クラブ指導者を合わせ285名が参加しました。ここ数年、総合優勝を逃していることから、記念大会の今年こそは優勝旗奪還を目標に各クラブが一丸となって頑張りました。総合成績は2勝10敗で総合優勝を逃してしまいましたが、記念大会に相応しく、それぞれの種目で熱戦が展開されました。伝統あるこの定期戦がこれからも続けて行われることを期待します。

伝統の定期戦

阿部（あべ）　伸（まこと）
課外活動連合委員会　事務局長
建築学科　3年

第30回の総合定期戦を終えて、北海道科学大学および本学の歴史と絆を深く実感できました。30周年という節目に実行委員長として携り、皆さまと新たな歴史を築くことができて、本当に嬉しいです。結果としては惜しくも敗れてしまいましたが、記憶に残る定期戦でした。これから先40、50年と続いて行ってくれたら嬉しく思います。

記念すべき第30回の総合定期戦を終えて

阿部（あべ）　秀隆（ひでたか）
学部学生会　会長
環境エネルギー学科　3年

この記念すべき第30回の北海道科学大学・東北工業大学総合定期戦を運営でき、無事に終えることができたことを大変喜ばしく思います。

試合当日は残念ながら雨が降ってしまいましたが、両大学の学生とも全力で試合に臨み頑張る姿に感動しました。

結果としては今年も総合優勝は逃してしまいましたが、どの試合も惜しい試合ばかりでしたので、来年こそは東北工業大学に優勝旗が持たらされることを切に願っております。

定期戦対戦成績

種　目	東北工業大学	対	北海道科学大学
サッカー	●	0 － 1	○
ラグビーフットボール	練　習		
ソフトテニス	●	1 － 3	○
硬式テニス	●	1 － 2	○
バスケットボール	○	84 － 66	●
剣道	●	1 － 2	○
柔道	●	1 － 5	○
アメリカンフットボール	●	0 － 7	○
バレーボール	●	0 － 3	○
ハンドボール	○	35 － 34	●
弓道	●	63 － 111	○
バドミントン	●	0 － 5	○
卓球	●	0 － 3	○
総合成績	2勝－10勝		

※北海道科学大学ラグビー部は練習で参加。

第41回千葉工業大学硬式野球部定期戦

千葉工業大学との第41回硬式野球部定期戦が8月17日（月）、18日（火）に本学野球場を会場に行われました。初日はあいにくの雨天のため、懇親会だけとなってしまいましたが、次の日は試合を無事に行うことができました。試合は2回に相手投手、内野手の乱れにより2点を先取し、序盤は毎回得点をあげる優位な試合運びとなりました。5回に相手打線の猛攻に遭い同点とされたものの、その裏には鈴木勇汰郎さん（安全安心生活デザイン学科3年）が本塁打を放ち、再びリードしました。しかし、終盤に投手の疲れなどで安打を浴び、接戦の末、5－8で敗れてしまいました。

悔しい結果となりましたが、お互いの秋季リーグ戦での活躍を誓い、親睦を深めることができました。

中村（なかむら）　友香（ともか）
硬式野球部　主務
経営コミュニケーション学科　2年

省・蓄・創エネルギー セグウェイ試乗会 in ユアスタ

佐藤（さとう）　諒太（りょうた）
環境エネルギー学科　4年

自主企画セグウェイ試乗会・Project Gingerは、環境エネルギー学科の学生12名で大学のイベント以外にもせんだいE-Actionという仙台市の環境活動にも参加しています。

その活動の一環で7月19日（日）にユアテックスタジアムにて開催された宮城県主催のエコチャレンジフェスタというイベントにも参加しました。

セグウェイは、ガソリン車の40倍の省エネ性能、1回の充電で約40km走行可能な蓄電機能、使用する電力を太陽光パネルで創電して省・蓄・創エネルギーを体験することができます。今回のイベントでは、2時間で195名もの方に試乗していただき、さまざまな世代の方にセグウェイを体験していただきました。

今後も活動を継続していくことで、省・蓄・創エネルギーの体験から一人ひとりが環境とエネルギーを考えるきっかけを作れる活動をしていきます。

セグウェイ試乗会における体験指導

青森での撮影を終えて

阿部（あべ）　千夏（ちなつ）
PHOTO STEP 代表
知能エレクトロニクス学科　3年

私たちPHOTO STEPは、写真の初心者や、写真を撮ることが好きな人たちが集まり、写真を撮ることを楽しみながら撮影技術の向上を目指すことを目的としています。

今回はねぶた祭りを撮影するため、青森を訪ねました。大迫力の山車や、楽しげに踊るはねとを目の当たりにして、夜間での難しい撮影に四苦八苦しながらも、参加者は夢中で撮影していました。

また、別日には早朝の浅虫の自然を肌で感じながら、清々しい空気を撮影できました。最初は「こんなカメラ触ったことないし、分からない」と不安を持っていた参加者も、時間が経つにつれ積極的にカメラを構えながら被写体を探すようになる姿が印象的でした。多くの参加者から「もっと写真が撮りたいと思うようになった」との声が上がり、今回の企画の目標は達成できたと感じております。

1月には一番町ロビーにて、今回撮影してきた写真の展示を行う予定です。皆さまに足を運んでいただけたら幸いです。

夜のねぶた祭り

浅虫の自然

奨学生紹介

平成27年度　公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生

公益信託岩井久雄記念宮城奨学育英基金奨学生について、本学より学部・大学院合わせて7名の学生を推薦しましたが、選考の結果3名の学生が奨学生として採用されました。今後の活躍を期待しています。

橘（たちばな）　謙太（けんた）
工学研究科　環境情報工学専攻
博士（前期）課程 1年
好きな言葉
一期一会

阿部（あべ）　千夏（ちなつ）
知能エレクトロニクス学科
3年
好きな言葉
失敗から学ぶ

池田（いけだ）　拓矢（たくや）
都市マネジメント学科
3年
好きな言葉
質実剛健

平成27年度 郵政福祉教育振興基金奨学生

選ばれた皆さんのさらなる活躍を期待しています。

野呂（のろ）　ちひろ
安全安心生活デザイン学科
3年
好きな言葉
質実剛健

佐藤（さとう）　貴文（たかふみ）
経営コミュニケーション学科
3年
好きな言葉
為せば成る、為さねば成らぬ、何事も

4年生・修士2年生対象 学内合同企業説明会開催

千葉（ちば）　則行（のりゆき）
就職委員長
都市マネジメント学科　教授

本学八木山キャンパスにて9月18日（金）午後、4年・修士2年の就職活動継続者を対象とした「平成27年度学内合同企業説明会」を開催いたしました。

この企業説明会は、企業・団体の採用担当者が来学し、事業内容や採用に関する説明をしていただくもので、本学にとっては毎年開催している就職支援の重要なイベントの一つでもあります。

当日は宮城県内外から49社の企業・団体の採用担当者が来学し、就職活動中の学部学生・大学院生68名が参加しました。企業説明会では学生が各企業・団体のブースを訪れる形式で行いましたが、緊張しながらも積極的に質問をしたり、説明のメモを取るなど真剣に臨んでいました。参加した学生の多くは3～5社の企業・団体と面談を行っており、「興味がなかった分野の企業の話も聞くことができ視野が広がった」などの意見が聞かれました。就職活動中の学生にとって手ごたえのあるイベントとなったようです。

インターンシップ

現場に足を運んで

高橋（たかはし）　昂希（こうき）
都市マネジメント学科　3年
実習先：東日本コンクリート株式会社

私は3日間にわたり、東日本大震災により大きな被害を受けた大船渡市で測量実習を行いました。各地点の高低差を測るレベル測量、トータルステーションを用いた光波測量など、大学の講義で学んできたことが、実際にどう使われているのかを目の当たりにすることができました。

また、実習を通して現場の方に貴重なお話を伺うことができ、就職活動に対するモチベーションの向上にも繋がりました。

今後インターンシップに参加するか迷っている方。キャンパスでは味わえない雰囲気や自分を知る絶好の機会ですので参加されてみてはいかがですか。

社会に触れる

古舘（ふるだて）　加奈子（かなこ）
安全安心生活デザイン学科　3年
実習先：株式会社氏家建築設計事務所

5日間のインターンシップに参加し、1/50の住宅模型を製作しました。ただ平面から立体に起こすのではなく、人に建物のイメージを分かりやすく伝えるにはどうすれば良いかなど、図面から情報を読み取るだけでなく自分で工夫して作るという、より実践的な体験をすることができました。

今回のインターンシップを通して学生と社会人の違いに触れ、仕事の大変さ・やりがい・社会人としての責任の重さを学ぶとともに、働くとはどういうことなのかが明確になりました。この経験は、今後の就職活動だけでなく大学生活にも役立てていきたいです。

スケジュール

日程	行事
5月20日・21日	説明会
6月12日	エントリーシート提出期限
6月中旬～6月下旬	マッチング
7月16日・22日	事前研修会
夏季休業期間	インターンシップ実施
10月2日	報告会
1月下旬	単位認定申請
3月下旬	単位取得

参加人数（平成27年度）

（単位：人）

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生
知能エレクトロニクス学科			1	
情報通信工学科			11	
建築学科			23	
都市マネジメント学科		1	18	
環境エネルギー学科			9	
合計		1	62	

ライフデザイン学部	1年生	2年生	3年生	4年生
クリエイティブデザイン学科		2	18	
安全安心生活デザイン学科			17	1
経営コミュニケーション学科			2	
合計		2	37	1

エネルギーもワイヤレスで！

工学部　環境エネルギー学科

田倉　哲也 研究室（TAKURA Tetsuya Laboratory）

本研究室は、磁界を用いたワイヤレスエネルギー伝送をさまざまな分野に応用し役立てる、磁気応用工学の研究をしています。パソコンやスマートフォンなどでは無線でデータ通信を行うことが一般的となっていますが、さらに電気エネルギーも無線で送るために必要な技術の開発を行っています。また、無線で体内に熱エネルギーを送ることで、がん細胞にダメージを与えるハイパーサーミアの研究も行っています。ワイヤレスエネルギー伝送は次世代の産業から医療まで幅広い分野で普及する可能性をもった技術です。

学生へのメッセージ

大学における研究は、単なる講義や学生実験のように、やることが決められているわけではないことがしばしばです。そのため、自分で物事を実行するスキルが求められます。特に実験系の研究室では、自分が直面している課題へのアプローチを自ら決め、それを満足する実験系を自ら構築し、そして実験から出てきた結果を課題にフィードバックすることでさまざまなことが明らかになるだけでなく、次の課題が見えてきます。そのため、「自分」が主体的に行動しなければ満足のいく結果は生まれません。

しかし最近は、自分で考えて行動することをショートカットして、結果がわかっている実験を好む学生が増えてきています。「わからない」ことが、研究では「チャンス」であり、そのチャンスを逃さないように常日頃自分で考える習慣をつけておくことが大切です。

研究室のメンバー

測定端子製作

コイル特性測定実験

学生の声

おばた　けいた
小幡　啓太

環境エネルギー学科
4年

腕や頭部などに付けて利用するウェアラブル端末への電磁誘導方式によるワイヤレス給電の研究をしています。ウェアラブル端末のサイズに最も適したコイル形状や周波数特性を把握すべく日々実験を行っています。研究室内では週に一度研究の進捗状況をメンバー間で発表し合うゼミが行われ、研究の方向性を確認できるため、今のところ迷わず研究を進められます。研究室の雰囲気は良好で、毎日楽しい時間を過ごしています。

たけだ　しょうた
武田　将太

環境エネルギー学科
4年

現在、私は田倉哲也研究室において小型無人機を対象としたワイヤレス給電システムの開発を行っております。電磁誘導方式によるワイヤレス給電システムを小型無人機に搭載することで持続的な動作の実現と航続性能の改善を目指しています。分からないことが多いですが、田倉先生や研究室のメンバーと協力し、卒業論文に向けて日々頑張っています。研究室内の結束を深めるために節目には懇親会を開催し、メンバーとの交流を深めています。

ちば　ひろき
千葉　大貴

環境エネルギー学科
4年

私が所属している田倉哲也研究室では、ワイヤレス給電システムの研究を行っています。この研究により、例えば、スマートフォンを持っているだけでいつのまにか充電が完了してしまうような未来もくるかもしれません。そんな未来を想像すると、研究への好奇心がどんどん膨らんでいきます。日々の研究や生活に、どのようなことが、新しい発見につながるかはわからないので、何事も楽しむ姿勢で取り組んでいます。また、友人や先生との会話も楽しみの一つです。

教室では語られない学生へ向けた先生のホンネを聞きました。

英語論文を書くための近道

許　雷
建築学科　准教授

学部生、大学院生になると学術論文、国際会議論文を書くことがしばしばあります。多くの論文では、英文で書く機会があり、そのたびに学生は苦労することがあります。

最近ではインターネットの普及に伴い翻訳サイトを利用して、英訳を行うケースが多く見られ、翻訳サイトを利用して作成された英語論文では正しく翻訳されないことがあります。特に専門用語が的確に翻訳されないケースがあることから、翻訳サイトを利用して論文を英訳することは賢明とは言えません。

英語論文を書くために類似論文、特に英語圏の著者の論文を読むことが最も重要で、少なくとも5報～10報の論文を読む必要があります。建築系の学生にはアメリカ建築学会のトップ10受賞作品の紹介サイト(http://www.aiatopten.org/)をお勧めします。

行動することで全てが変わるかも!?

二瀬（にのせ）　由理（ゆり）
経営コミュニケーション学科　准教授

「学生の皆さん、毎日を楽しく過ごしていますか?」私の周囲の学生にこの質問をぶつけると、目を輝かせながら「はい」と答えてくれる人もいますが、多くの学生は、「そんなに楽しいことはないですよ」と答えます。

でも、自分が過ごす一日一日を楽しくすることができるのは、学生の皆さん自身だと私は思います。

ただ漫然と過ごしていくことは、「楽」なことだとは思いますが、「楽しい」という感情は生みません。自分がやりたいことを見つけ、がむしゃらに取り組んで欲しいと思います。

失敗したとしてもそれがきっとその後の人生の糧になるはずです。

いろいろな方向からみる

小川（おがわ）　淑人（よしと）
共通教育センター　教授

仙台駅から東北工業大学の八木山キャンパスまでバスで行くには、霊屋橋経由と愛宕大橋経由があります。地下鉄東西線もまもなく開業します。このように複数の方法があるということは実にありがたいことです。

数学の勉強でも、幾何の問題を座標を使って考えると、簡単に解けることがあります。座標を使ってできたら、逆に幾何だけを使って考えてみる。こんなふうにして、いろいろな方向からみることで理解を深めることができます。

さらに、複数の方法により間違いを防ぐことができます。今でこそパソコンで表計算ができますが、昔は縦と横の合計が合うということが正解の証しでした。

インドネシア学生の来訪

楽芸員ダッチャに認定

幾何学の美

海外学生の来訪（JENESYS2.0）

気仙沼はまらいんや踊りへの参加

コーヒーブレイク

中原大学短期留学についての抱負

6年間の継続と経験の蓄積

石井（いしい） 敏（さとし） 建築学科　教授

台中市 台中メトロポリタンオペラハウスの見学

ウィンドダンパーの見学

平成27年は中原大学設計学部建築学科に4名が派遣されます。これまで6年間で13名（女9名、男4名）が留学し、その継続と経験の蓄積が在学生にも浸透してきていることを強く感じます。出発を控えて、期待とともに不安も増してきたようです。留学経験のある大学院生に、向こうでの生活の様子や持ち物などの話を聞いたりして準備を進めています。貴重な時間です。今、そこでしかできない経験をしてきてください！なお、11月からは5名の中原大学の学生を本学に迎え入れます。交流が双方向のものとなり、確実に発展していることを嬉しく思います。

河村（かわむら） 彩香（あやか） 建築学科　4年

私は留学したら、オペラハウスなど、多くの建造物に触れたいと思います。その経験を踏まえて、自分自身の卒業設計に応用したいと考えています。

中原大学の建築学科は、本学の学生より高度な技術を学んでいると聞きました。ついていくのが大変とは思いますが、きちんと吸収して、他の学生に良い影響を与えたいです。

津場（つば） 一誠（いっせい） 建築学科　4年

台湾の先生方や学生または現地の方とコミュニケーションを図ることが自分にとって建築学のみにとどまらず、来年からの社会人として働く生活において、大きな刺激となると考えています。

特に台湾の学生はとても学業に対する意識が高く、そのような意識の高い学生の輪の中に入り、コミュニケーションを図っていくことで日本では感じることのできない学業に対する熱意や、作業スタイルなどに触れて、自分の意識を変えていきたいです。

佐藤（さとう） 未和（みわ） 建築学科　4年

台湾に行った際に、成し遂げたいことが2点あります。

まず、中原大学生と交流し講義を受けながらパソコン技術や建築への考え方、特にプロセスについて学びたいと考えています。

２点目は台湾の文化です。日本とは違う習慣や考え方がたくさんあると思いますが、そこで学び、感じて自分の視野を広げていきたいと思います。

中原大学では、主に卒業設計の授業を学びますが、自由な時間もたくさんあると思いますので、さまざまな経験をしたいと考えています。

宮寺（みやでら） 優衣（ゆい） 建築学科　4年

2か月間に渡る台湾の中原大学留学への参加は、とても緊張することです。まったく知らない土地や暮らしに慣れるか心配ですが、台湾の建築が学べるのは楽しみです。

学生のうちにいろいろな国で学ぶ機会があるのは、とてもラッキーだと思います。

この恵まれた機会にさまざまな人や建築に触れて、一回り大きくなって、卒業設計も真剣に取り組んで帰って来ます。

2015泰日工業大学（タイ）サマープログラム参加報告

タイで気付かされたこと

小泉（こいずみ） 湧多（ゆうた） 経営コミュニケーション学科　4年

タイへ行く前、私は治安などの不安を感じていました。しかし、振り返れば充実した12日間でした。寺院観光に訪れた際、TNI学生が時間をかけてお参りをする光景を目にし、私の行動を反省させられました。それは、私のお参りが文化を意識しない形式的なものとなっていたことです。私は過去にタイの学生と交流する機会が何度かありましたが、仙台の紹介に手一杯となり、タイと日本の文化の良さを理解することに積極的ではありませんでした。

今後は活動の中で出会ったTNI※学生や他大学の学生との交流を継続的なものとし、日泰交流に繋げることを目標とします。

※TNI：泰日工業大学

バンディット・ローッアラヤノン泰日工業大学学長からサマープログラム修了証書授与

参加者全員がサマープログラム修了証書を授与

地域連携センターだより

■第56回Tohtechサロン開催

一番町ロビーにおいて9月15日（火）に、本学COC推進室との共催で「まち歩きマップ制作と公共施設等の広報デザインの事例紹介セミナー」を開催しました。

都市マネジメント学科森田哲夫教授からは、本学が仙台市と連携して制作した地下鉄東西線駅周辺まち歩きマップの制作過程の紹介と、マップ制作プロジェクトに参画した学生から、まち歩き活動の様子の紹介などがありました。クリエイティブデザイン学科篠原良太准教授からは、学生参画による公共施設の案内パンフレットやポスターデザイン制作などの事例紹介がありました。

質疑応答では、仙台市関係者・一般参加者・本学教員と活発な意見交換もあり、今後のさらなる地域連携事例として発展が期待できるセミナーとなり、好評を得ました。

多数の参加者が来場しました

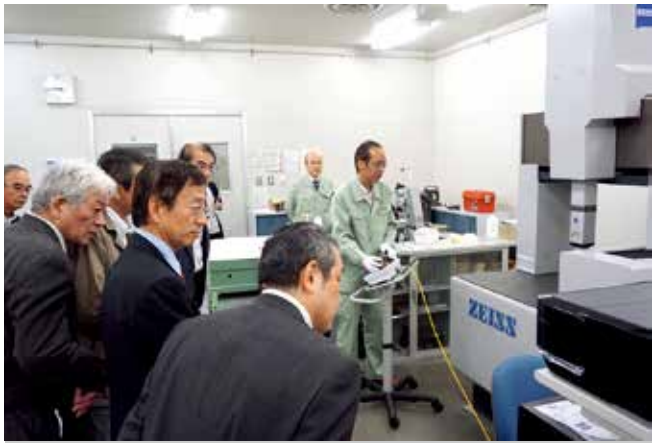
活発な意見交換がされました

■宮城県産業技術総合センターとの技術交流会

本学教職員と宮城県産業技術総合センターとの技術交流会および同センターの施設見学会が8月31日（月）に開催されました。技術交流会では、宮城県産業技術総合センターの事業説明、本学教員6名による研究シーズ発表を行い、その後の意見交換では活発な意見が交されました。施設見学では、加工・デザインコースと評価・測定コースの2コースで同センターが所有する最先端機器の紹介がありました。本技術交流会を通して、両機関の研究シーズや活動内容を認識することで相互の共同研究や産学官連携がより推進されることが期待されます。

本学と宮城県産業技術総合センターとは、平成26年7月に「地域企業への技術支援・地域産業振興」を目的とした連携協定を締結しております。

互いの現在を知る機会となりました



高度な設備に興味津々でした

■おおさき産業フェア2015の出展参加

「おおさき産業フェア2015」が、10月23日（金）・24日（土）の両日、大崎市総合体育館にて開催されました。本学の研究シーズ紹介として、平成27年度は、知能エレクトロニクス学科丸山次人教授の「高齢者用の電動スマートカート開発研究」からスマートカートの展示、そして環境エネルギー学科牧雅康講師の「無人飛行体（UAV）を用いた水稲の生育監視システムの開発」から調査に使用しているドローン機の展示を行いました。地元の中学・高校生も多数訪れ、講師の先生方に鋭い質問を投げかける場面もありました。また地域の方も来ており、丸山次人教授のスマートカートを体験して、貴重なご意見をいただきました。2日間で2,000名を超える来場者があり、本学ブースにも企業などの多くの方に来ていただき、今後の共同研究のマッチングに発展する実りあるイベントとなりました。

実際の使い心地はどうか、貴重な意見が聞かれました

企業などからの質問に答える丸山次人教授

■ロイヤルメルボルン工科大学インターンシップ学生について

本学に7月6日（月）から2か月間滞在し、9月9日（水）、オーストラリアからのインターンシップ学生、ロイヤルメルボルン工科大学のサラ クィンティナ ラトゥハルハリー（Sarah Quintina Latuharhary）さんによるインターンシップ成果報告会ならびに修了式が行われました。

復興大学ボランティアステーション（東北学院大学主催）の活動では、日本に何か貢献できたという実感がわいたこと、仙台城南高校では、インドネシアやオーストラリアについて発表を行い、お茶会・白玉団子づくりやインドネシア料理作りなど貴重な経験となったこと、本学での英語の授業の補佐や地域連携センターで勤務したことを話しました。

本学の各指導教員からは、日本の職場に苦労しながら慣れていったことや、仙台城南高校生へ向けた熱意のある発表についても報告がありました。

インターンシップ学生を囲んでの記念撮影

■第10回「秋の八木山フェスタ」が開催されました

本学の学生、教職員が八木山市民センターを会場として参加した「八木山フェスタ」が、祝日の11月3日（火）に開催されました。

例年、本学を会場として行われておりました「八木山フェスタ」は、改装工事を終え、リニューアルした八木山市民センターにおいて、イベント企画を行いました。

体育館では、ブーメランワークショップが行われ、ステージイベントとして、吹奏楽、アコースティックの演奏とダンス演技が披露されました。

その他に本館2階・3階では、本学の学生、教職員が多種にわたる企画イベントを行い、700名の来場者に楽しんでいただき、好評を得ることができました。

天候にも恵まれ、文化の日に相応しい、充実した一日を提供できました。

各イベントの開催

◆学都「仙台・宮城」サイエンス・デイ2015 出展

山田（やまだ） 真幸（まさき） 都市マネジメント学科　准教授

東北大学にて「ドボクを体験 つよいぜ！！紙で橋をつくってみよう」と題して、7月19日(日)、学生3名と体験ブースを運営しました。

グルーガンとケント紙で実物と同様な構造を持つ橋の模型を作り実験をするといったもので、昼食を取る暇もないほどの盛況ぶりでした。200名の小中学生に土木構造物である「橋」の工夫を感じてもらいました。完成した橋におもりが載った時のうれしそうな笑顔がとても印象的で、準備は大変でしたがステキな行事でした。

このイベントには都市マネジメント学科賞を創設し、仙台二華中学校 自然科学部に授与しました。

※他出展学科：知能エレクトロニクス学科、建築学科、環境エネルギー学科

橋の模型づくりをお手伝い

◆「動きのカガク展」への参加

鹿野（かの） 護（まもる） クリエイティブデザイン学科　准教授

クリエイティブデザイン学科の学生有志が集まり、東京ミッドタウン・ガーデン内 21_21 DESIGIN SIGHTで行われた企画展「動きのカガク展」に参加しました。

学生が主体となって、作品の展示と、ワークショプを開催しました。「サイクル」と名付けた展示作品は、鑑賞者が触って動かすことのできる大型の展示作品で、展示中は多くの人が体験をしていました。

ワークショップも学生が企画したもので、子供から大人までが参加する、楽しく学べる内容となりました。

「プロジェクト・モーション / サイクル」を体験する来場者

◆青森県鰺ヶ沢町に残る軍事遺産の調査研究

小山（こやま） 祐司（ゆうじ） 安全安心生活デザイン学科　教授

小山祐司研究室（安全安心生活デザイン学科）では、平成26年度から継続して、旧陸軍第8師団山田野演習場廠舎域に残る兵舎（兵卒宿舎）と官舎（将校または管理人の宿舎）の建築史的調査を行っています。建築遺産をどのように保全し活用するかに向けた基礎的な調査でもあります。軍事施設に関する記録は敗戦時に、組織的に処分されるなどしてほとんど残っておりません。建築遺構調査とともに、地元の生存者からの聞き取り情報が調査研究の要となっております。平成27年は、秋に行われる地元開催の報告会（聞き取り調査を含む）に向けて、建築模型製作に取り組んでおります。

山田野演習場　第９兵舎復元模型製作作業

◆「東北工大Live講義2015 ～学びを知ると未来が見えてくる～ 」

入試広報課

本学八木山キャンパスにおいて9月12日（土）秋晴れのもと、「東北工大Live講義2015」が開催されました。はじめにAOVA入試（AO入試）、そして今年度から実施される公募制推薦入試を中心に、本学の入試制度の説明を行いました。その後、午前、午後それぞれ4つの講義（計8講義）が行われ、多くの高校生が自分の興味・関心のある講義を熱心に受講しました。受講生のほとんどが「学科への出願意欲が高まった。」「同学科の別なテーマの講義も聴いてみたい。」など満足度の高い感想が多く聞かれました。

また、特別講座として「小論文・面接対策講座」が、937教室（tohtech MEMORIAL HALL）で開催されました。

AOVA入試や公募制推薦入試における小論文対策や面接時の心構えなどの講座に熱心に耳を傾け、多くの受講生がメモをとっていた姿が印象的でした。

「Live講義」に参加された高校生・保護者の方には、本学での学びの一端、そしてキャンパスの雰囲気を体感していただけたと思います。多くの高校生が本学を目指すことを期待しています。

特別講座の受講

研究施設の見学

◆高校生「くらしのアイデアコンテスト」が、2015年度グッドデザイン賞に選ばれました。

篠原（しのはら） 良太（りょうた） クリエイティブデザイン学科　准教授

平成25年度よりスタートした高校生「くらしのアイデアコンテスト」が、平成27年度のグッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）に選ばれました。

これから社会全体を良くする大きな力になっていく高校生を対象に、「暮らしをより良くすること」というテーマで対話的なデザインプロセスが体験できるコンテストであることや、プロセスを丁寧に記録し参加者全員が学べるような工夫が評価されました。受賞内容の詳細はクリエイティブデザイン学科のWEBサイトからご覧になれます。

※平成27年度のコンテスト審査結果は、平成28年1月18日（月）に発表いたします。

くらしのアイデア受賞作品展

◆北と南のクラフト展 ～みやぎの手しごと＆熊本県内工芸～

伊藤（いとう） 美由紀（みゆき） 安全安心生活デザイン学科　准教授

美しい紅葉も見られる仙台市秋保の「木の家」で、宮城県各地と熊本県の手しごとの工芸品を一度に楽しめる展示会が10月2日（金）～11月3日（火）まで開催されました。

熊本県伝統工芸館と東北工業大学が連携協定を締結していることから、平成26年11月と平成27年5月は熊本県伝統工芸館で「東北の工芸支援展」を開催しており、平成27年度は熊本の工芸を宮城で紹介しようと企画しました。

多くの方が来場し、熊本の郷土玩具ややきもの、手打刃物、宮城の工芸品などを熱心に見入っていました。

熊本県の玩具

秋保「木の家」での展示

東北工業大学の"今"を伝える広報誌
工大広報 No.279 Autumn 2015
2015年11月27日発行（年4回発行）
発行：東北工業大学
〒982-8577仙台市太白区八木山香澄町35番1号
TEL:022-305-3144（入試広報課） http://www.tohtech.ac.jp

PROFILE 教員ピックアップ

建築学科 福屋（ふくや） 粧子（しょうこ） 准教授

◀◀◀ 建築学科 高橋（たかはし） 恒夫（つねお） 教授 がご紹介

建築の新しい風をいち早く仙台に

福屋粧子准教授は、1994年東京大学工学部反応化学科にて生化学の研究で卒業論文を書いた後、建築学科に学士入学し、同大学院建築学専攻修士課程を修了しているという異色の学歴をお持ちです。1999年～2004年著名な建築家・妹島和世＋西沢立衛／SANAA 設計スタッフとして「金沢21世紀美術館」などを担当し、2010年に本学建築学科建築史・意匠分野の意匠学担当第六代目の教員として着任しました。このポストは建築の新しい風をいち早く仙台に伝える人材が代々務めてきました。震災後、アーキエイド（東日本大震災における建築家による復興支援ネットワーク）にて、第三回吉阪隆正賞を共同受賞。失われた街模型復元プロジェクトにて、2015年日本建築学会賞（業績）を共同受賞。今年は、仙台市と共催で、空き家や空き地を活用する「せんだいリノベーションまちづくり」を進めています。

研究室学生による石巻市小渕浜における漁師の方からのヒアリング

topics

避難訓練が開催されました

施設管財課

東日本大震災（平成23年3月11日発生）および余震の経験をもとに、今後、予想される大規模地震に備え、10月30日（金）午後、両キャンパス合せて1,104名の学生と教職員が参加し避難訓練が行われました。

平常時に緊急事態が発生した際「自分の身の安全は自分で守る」ことを想定し、学生、教職員が敏速かつ安全に避難することを目的とし、自衛消防隊と減災行動・体制検討WGが共同して開催されました。

訓練は、教職員および非常勤講師を含む授業担当教員の協力を得て、各建物から指定避難場所へ避難誘導が行われ、無事終了することができました。

また、11月5日（木）には、内閣府と気象庁による「緊急地震速報を活用した訓練」が全国一斉に行われ、本学も訓練に参加いたしました。

column

ウェルネスセンター 森田（もりた） 健一（けんいち） カウンセラー 講師

趣味がない人、楽しめない人

前号で趣味について触れましたが、「趣味がないのです」と困ったように話す学生がいます。

たとえば、好きなことはアニメ鑑賞。確かに、フットサルやダンスなどと比べますと地味な印象ですし、高らかに宣言するには少し憚られるかもしれません。

しかし、趣味は本来他人と比較評価されるべきものではなく、自分自身が好きならば何でも良いはずです。にもかかわらず、成果や生産性、将来に役立ちうるかなど、つい何でも「評価」してしまうのが人間の悲しい性質です（その性質によって科学技術の発展があるのも事実ですが）。結果、趣味とは言いがたくなる。

仕事ならいざ知らず趣味であればそんなこと気にしないで良いではないかと言っても、「とはいえやはり無駄な時間とも思うのです」と反論につながる。じっくり聞きますと、純粋に趣味として楽しむのみならず、どうも逃げ道としてもそれが位置づけられているようです。すべきことがあるのに集中できず、気慰めの行為としてアニメを楽しむ。そんな罪悪感もまた「アニメ鑑賞が趣味です」と宣言できなくさせているようです。

趣味を趣味として心から楽しむには、仕事や学業など"本業"の方をまずは懸命に取り組むことです。そこで一所懸命やっていれば、華やかでなくとも後ろめたさを感じずに趣味を楽しむことができます。趣味を堂々と満喫するには、逆に本業をがんばること、つまり「負い目」を感じないような工夫が必要なのです。

今後の行事予定（平成27年度）

12月
- 5日(土)・12日(土) 後期補講日
- 28日(月) 冬季休業開始（～1/4(月)まで）

平成28年1月
- 4日(月) 冬季休業終了
- 15日(金) 定期試験時間割発表
- 21日(木) 後期補講日
- 22日(金)～27日(水) 後期定期試験

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしております。
〒982-8577
宮城県仙台市太白区
八木山香澄町35-1
東北工業大学 入試広報課
TEL：022-305-3144
FAX：022-305-3146
E-mail：kouhou@tohtech.ac.jp